

(別記)

## 2020年度鳥羽市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当市における水田は、全耕地面積の約8割を占めているが、湿田が多く、圃場区画も小さいことなどから、麦、大豆等土地利用型作物の生産には適しておらず推進しにくい状況にある。

コメの需給調整については、平坦地が少なく、海沿い地域においては、転作作物の定着には不利な条件下であることから、大部分を自己保全管理等（不作付け）で対応されており、土地利用率が低い状況にある。

### 2 作物ごとの取組方針等

圃場整備の完了した平坦地域では、担い手による効率的な水田農業を展開していく。26年度より開業した農水産物直売所「鳥羽マルシェ」等を情報発信の拠点として地産地消を進めることにより、地域特産物を育成する。

#### (1) 主食用米

当地域は、米の消費地である一方で、条件不利地が多く、水稻以外の農作物を効率的に栽培することが難しいことから、需要に応じて水稻栽培を推進することが、地域の水田を維持する最も有効な手段である。JA米のほか、特別栽培米(減農薬、減化学肥料)及び温暖な気候を生かした極早生米づくり等を通じたブランド化を進めるとともに、地産地消を推進することで地域内での安定供給を目指す。

#### (2) 野菜、果樹

条件不利地等での野菜・果樹、特に高齢者でも取組みやすい軽量野菜などの生産を推進し、市内直売所等への出荷による地産地消を推進する。

「イチゴ」も市内直売所等で需要が多く、地域の振興品目であることから、産地交付金を活用し、取組農家の生産性向上を目指す。

#### (3) 不作付地の解消

水田は、作業委託や利用権設定希望者へ、農業振興地域では、農地中間管理事業を利用した担い手への集積などを活用し、機械・施設の導入支援を行う。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	135	135	135
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
イチゴ	0.136	0.15	0.15
その他の野菜・果樹	0.408	0.45	0.45

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	現状値	目標値
				(2019年度)	(2020年度)
1	野菜・果樹 (詳細は別紙)	高収益作物助成	作付面積	0.408 ha	0.45 ha
2	イチゴ(苗を除く)	地域振興作物助成	作付面積	0.136 ha	0.15 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり